

ゲームロッド(極鋭コンセプトゲームF)か 専用竿(エギタコX)か

極鋭コンセプトゲームF AGS

●文字どおり、コンセプトに合わせて設計された「極鋭コンセプトゲーム」シリーズに、このたび極先調子タイプのFが登場。MH-160とH-170が追加発売された。ライト、パワー、MC(マイクロセンシティブ)に続く極先調子設計のF、アイテム2本はわずかなアタリをとらえて瞬間的な合わせが可能。ダイレクトに仕掛けを動かせるシャクリや小づきなどの操作もスムーズに行えるようになった。最先端のSMT、AGS、X45などを搭載。今回使用したMHはエギタコのほか、カットウブグ、ライトタチウオ、ライトアマダイなど、Hはエギタコのほかライトヤリイカ、オニカサゴ、タチウオなどに。

▲極鋭コンセプトゲームはSMTにAGSの組み合わせ

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	テンヤ 負荷(号)	適合クランプ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
F MH-160AGS	1.6	1	160	98	0.8/10.8	20~60	30~40	SSS	97	54,500
F H-170AGS	1.7	2	104	130	0.9/12.3	40~100	40~50	SS	97	56,000

エギタコX

●乗りをはじかないグラスソリッド採用、コスバに優れたエギタコ専用竿。MとHの2アイテムあるうち、H-180は常磐エリアに最適なモデル。

■SPEC=自重137g、全長1.8m、継ぎ数2本、オモリ負荷50~120号、メーカー希望本体価格18,500円

フネXT 150PL-OP

●ギア比4.8、自重220g、巻糸量PE2号220m、3号150m、メーカー希望本体価格16,000円

快適船タコエギSS

●サイズを選ばずマダコが抱きつきやすいコンパクトボディにサクサクフックを搭載。アピールを増すラトル音内蔵。3、3.5号の2種。カラーは11色、本体価格は950円

その他のアイテム

●写真左から快適タコの抱き枕、中央が速攻タコエギリーダー、抱き魂タコ。右はマダコ専用ルアー、マダク



▶沖場がギリ寸前にダブルヒットで締めくくる



▶エギタコXは常磐エリア専用モデル



▲釣り場は那珂湊沖の水深25メートル前後
▶「コスバなタックルの組み合わせもおすすです」と林さん

バサラ200

●ギア比6.3、自重310g、巻糸量PE2号250m、3号180m、メーカー希望本体価格45,400円



んといってもコスバに優れているのが特長です」と林さん。
2人が使用する餌木は、「快適船タコエギSS」をメインに「マダク」など、オモリは60号だった。さっそく釣り開始となるが、ウネリが高くて釣りづらそう。すぐに林さんが0.3キロ級の小型を釣る。北

動画連動!

★当日の迫力ある動画はダイワ船最前線のサイトでご覧になれます。



その後もボツボツながら乗せていく2人だったが、北東風がますます強くなり、11時に早揚げが告げられた。
2人とも仲よく二ヶタ釣果。「渡りダコのシーズンはこれからです。正月用の食材確保にもう一度お邪魔しないと」と、次の釣行を約束する2人だった。

本さんもすぐに乗りをとらえるものの、巻き上げ中にバラシ。船中でも高いウネリのせいでバラシが連発状態。
「ウネリもありますが、乗りが浅いせいもあるでしょう。でも餌木に乗った感触は確実に分かります」と北本さん。
3回目の流し変えあたりから乗りがよくなって、いよいよ連チャンモード。林さんが釣れば北本さんともいった具合に、徐々に数をのばしていく。
サイズは0.5キロ前後がメインだったが、ついに北本さんが大型らしきヤリトリ。海面に現れたのはまさしく渡りダコといえる3キロ級の大型だった。
その後もボツボツながら乗せていく2人だったが、北東風がますます強くなり、11時に早揚げが告げられた。

△KYOKUEI CONCEPT GAME F

好期インの常磐のマダコ
釣果アップの
決め手とは

★北本さんが船中最大となる3キロ級を上げる。渡りダコのシーズンとなればこのサイズがメインとなる

KYOKUEI
CONCEPT
GAME F
+
BASARA
200

EGITAKO X
+
FUNE XT
150 PL-OP

北本茂照、林良一の名手が贈る
常磐餌木タコの最適タックル選び

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.69

エギタコ最前線

at 茨城県日立久慈漁港出船



▲「これはデッカイ」と言いながら、コンセプトゲームを大きく曲げた
▲「黒の餌木がよかったですね」と北本さん

●数ある関東のマダコ釣り場の中で、現在高い人気を集めているのがなんといっても数が釣れている常磐エリア。12月には名物「渡りダコ」と呼ばれる大型が交じり、さらにヒートアップ確実。今回は餌木タコの名手が日立久慈漁港から出船した模様をお送りしよう。

年末が近くなるとにわかに注目度がアップするのがマダコ。もちろん正月用の食材調達がお目当てだが、釣果も上昇するシーズンでもあるからだ。
とくに常磐エリアでは「渡りダコ」と呼ばれる大型が数釣れる時期、マダコファンにとっては見逃せない釣り場なのである。11月下旬、北本茂照、林良一の両氏が訪れたのは茨城県日立久慈漁港の明進丸。絶好調に釣れているのもあるが、そろそろ交じるであろう渡りの大型も視野に入れている。

北本さんが持参した竿は「極鋭コンセプトゲーム」に新たに追加されたFシリーズ、2アイテムあるうちのMH-160。
「Fは極先調子設計、常磐の餌木タコには最適なんです。この先水深が深くなって型もよくなるとH-170がおすすです」と北本さん。リールはハイパードライブデザインが搭載されて巻き上げも楽な「バサラ200」との組み合わせだ。
一方の林さんは「エギタコX」2アイテムあるうちのH-180を使用。リールは同じくコスバに優れつつも、最大ドラッグ力9キロでパワフルな巻き上げが可能。な「Hはまさに常磐エリア専用、重いオモリとの相性もよく、な